

# JBCF 2026 広島三原ロードレース

開催日：2026年3月28日(土)

開催地：広島県中央森林公園サイクリングコース(12.3km 周回コース)

距離：123km

出場：菅原(17位) 大石(50位) 永井、藤井、鈴木、筒井(DNF)

2026 シーズンロードレースが開幕。幾度となく熱戦が繰り広げられている広島県中央森林公園にて開催。気温は20°Cと最高の天候。

はたして今年は三段坂をうまく攻略できるかどうか。

レースプランは永井をエースに抜擢。菅原、藤井を準エースとし、他メンバーで後手を踏まないように展開していく作戦。

後半勝負に備え危険な動き以外は見送る方向でスタート。

スタートからある程度の抜け出しはあるが驚異的な動きにはならない。

様子を伺いながら抜け出しの動きが続く。

2 周目三段坂で菅原が10人程で抜け出す形になるが集団も容認せず。

この動きで筒井が遅れてしまう。初JPTの洗礼を浴びた筒井、今後に期待!

3 周目の周回賞を前に三段坂で集団は活性化。この動きの中で2名が先行を開始。

ヴィクトワール広島、キンテロ選手

スパークル大分、金井選手

集団はこの動きを容認し2名 vs 集団の構図がしばらく続く。

タイム差は最大2分弱まで拡大するもレバンテフジ、山口選手の一本引きで40秒まで縮まる。

6 周目の三段坂でペースが上がリ菅原は先頭集団、大石が第二集団に残る。

そこからさらに地元ヴィクトワール広島、エリオット選手が単独で抜け出していく。

永井、藤井、鈴木、筒井は粉々になった各グループでゴールを目指すことに。

7 周目、8 周目も同様に三段坂でペースアップ

が起り集団は18名に。菅原がここに残り勝負する事に。

9 周目の三段坂で群馬マンモス、島崎選手がペースアップし集団はバラバラに。

ここで菅原は限界を迎えドロップ。

後続集団に飲まれない様ゴールを目指す事に。

優勝 エリオット選手(ヴィクトワール広島)

2位 新城選手(キナンレーシング)

3位 谷選手(Astemo ブリッツェン)

17位 菅原

50位 大石

～監督談～

これぞロードレース、と言った展開だった。

速い時間があり、緩む時間がある。終盤に向けてポジション争いが始まり、勝負の時間が来る。

今回永井をエースに作戦を組み立てたがうまくいかず菅原が勝負する事に。

エースがダメでもまわりが立て直す。それがチームワーク。自転車競技、エースが勝負出来なくて責任を全て背負わせるにはあまりにも酷。

そんなチームにする気はなく、全員がやることを全うし、優勝を掴み取りたい。

～菅原談～

20℃と走りやすい気温だった為、水分を積極的に摂取する事を忘れていた。

結果9周目の打ち合いで脚が痙攣してしまい THE END.

初歩的なミスをやらかしてしまった。足の感触は悪くないのでこの先勝負出来そうです。

～大石談～

この距離のレースは初で、キツすぎました。

身体は動くのでチームに貢献できる走りをしたい。

～藤井談～

勝負どころではみんなもっと前で展開に乗りたい。

クラブチームの小競り合いを制し良い位置で勝負をしたい。

～筒井談～

位置が悪く永遠に踏んでいる感覚だった。未体験のゾーンだったので先輩達を見習い前で展開できる様にしたい。



前半を集団前方で備える永井、藤井



6周目のペースアップを生き残った大石、菅原



エース格の選手と対等にやりあう菅原



勝負のかかった動きに反応する菅原